

総合的な学習の時間－6（第4学年） 異なる視点で分析し考える力を育てる事例
【学習活動の概要】

1 単元名 復活させよう！地域が愛した『大久保つつじ』

2 単元の目標

江戸時代に栄えた「大久保つつじ」を地域の人に広めようとする活動を通して、「大久保つつじ」を取り巻く当時の様子や「大久保つつじ」を未来のまちづくりに役立てようとする地域の取組みを知り、地域のためにすすんで活動しようとする。

3 評価規準

- 【情報収集の力】課題解決に向けて目的をもって必要な情報を収集している。
- 【論理的思考の力】対象を複数の視点で分析したり、比較したりして考えている。
- 【コミュニケーションの力】地域の人とすすんでかかわり、自分の思いを伝えている。
- 【意思決定・行動力】地域に貢献できる活動を考え、力を合わせて実行している。

4 教材

本校の学区は、江戸時代後期から昭和初期にかけて、つつじの名所として広く知られていた歴史がある。宅地化や戦災などにより姿を消した「大久保つつじ」をもう一度大久保の地に戻し、「つつじのさと」として魅力あるまちづくりを進めようとする地域の願いに着目した単元である。本単元の中心活動は、「大久保つつじ」を多くの人に知らせるための広報活動である。広報活動によって、改めて地域を見つめ直し、魅力あるまちづくりに携わる地域の人々の努力や工夫、地域への思いなどを知ることにつながると考えた。また、自らの国籍などに関係なく、地域の一員としての自覚をもち、地域社会にかかわる態度を育成したいと考え単元を構成した。

5 主な学習活動

(1)単元の展開（全35時間）

	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第一次	○なぜ、校章や新宿区の花が「つつじ」なのかを探り、「大久保つつじ」への関心を高める。(5)	<ul style="list-style-type: none"> ・「つつじ」と大久保との関係を知るために、魅力あるまちづくりを推進している地域の方との出会いの場を設定する。 ・調査過程で生まれる問題を調べたり分析したりして、友達と協同で解決していくようにする。 ・考えたことを地域に伝えたり、地域の人と意見交換したりしながら活動する場を設定する。 ・活動したことやそこでの思考を確かな認識とするために、言語により振り返りまとめる活動を行う。
第二次	○地域の人々がどのくらい「大久保つつじ」を知っているのかを調査する。(6)	
第三次	○「大久保つつじ」を地域の人に広める方法を考える。(6:本時4/6) ○自分たちの考えや提案方法をよりよくするために、地域の人々のアドバイスを得たり協力を依頼したりする。(4)	
第四次	○実際に考えたことを実行し「大久保つつじ」を広める。(12) ○活動を振り返りレポートにまとめる。(2)	

(2)本時の学習

自分たちが考えた「大久保つつじ」を広める方法をメリットとデメリットの両面から話し合うことにより、より現実的で確かな方法（作戦）を見いだしたり選択したりできるようにする。

- 「大久保つつじ」を広める方法を付箋紙に書き出す。
- グループごとにメリット、デメリットの視点で方法を見つめ直す。
- グループごとに話し合った結果を全体で共有し、よりよい方法を決定する。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

小学校学習指導要領 第5章 総合的な学習の時間 第3の2の(2)において、「問題の解決や探究活動の過程においては、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること。」と示している。

体験したことや収集した情報を、言語により分析したりまとめたりすることは、問題の解決や探究活動の過程において特に大切にすべきことである。そのためには、分析とは何をすることなのか具体的なイメージをもつことが必要となる。例えば、集めた情報を共通点と相違点に分けて分類したり、時間軸に沿って並べたり、原因と結果に分けたり、変化や結果を予測したり、現実社会の事象に当てはめたり、多面的・多角的に分析したりすることなどが考えられる。

本事例は、地域調査から浮かび上がった問題点の解決策について考え、現実的で確かな方法へと高めていく場面である。そのために、児童が考えた方法をメリットとデメリットという異なる視点から分析し、よりよい方法へと高めていく学習活動を行う。

【言語活動の充実の工夫】—異なる視点で分析し考える話し合い活動—

地域の住民に行ったアンケート調査から、地域で「大久保つつじ」がほとんど知られていない現実を知る。そのため、前時までに「大久保つつじ」を広めるための方法の候補として、パンフレット、ポスター、カレンダーなどを考えた。

本時は、前時までに考えたいくつかの方法をメリット、デメリットの視点で見直し、より現実的で確かな方法にするための話し合い活動を行った。

～「よいわる発見シート」の活用例（4～5名）～

①方法ごとに、「良い点（メリット）」をグループで話し合い、ワークシートに書き込む。



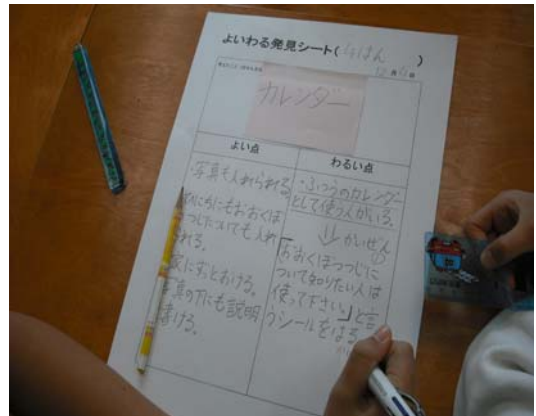
②方法ごとに、「悪い点（デメリット）」をグループで話し合い、ワークシートに書き込む



③「悪い点（デメリット）」について、具体的な改善点をグループで考える。



④グループごとに話し合った結果を一覧表にして共有し、よりよい方法を決定する。



メリット、デメリットの両面からの話し合いは、実践したい方法を異なる視点から分析し考える児童の姿を生み出した。メリットとデメリットに分けて書き込むワークシートにより、児童にとっては、それぞれの方法の価値が目に見えて分かる。グループ内では、新たなよさに気付いたり、問題点を指摘したりするなどの主体的な話し合いが展開された。メリットとデメリットの項目数などによって方法の是非を判断するだけでなく、デメリットに書かれたことからよりよい方法へと改善策を考える児童の姿も生まれてきた。このように、課題を解決していく際には、解決のためのアイデアや方法などについて、メリットとデメリットの両面から吟味させ、より一層提案性の高い内容や方法へと高めていくことができる。



思考力・判断力・表現力等の学習活動の分類： ④